中沢中

自ら学ぶ力の育成
～自己調整学習を通して～

（３年計画の３年次）

校長　　齋　藤　　浩

１　研究主題について

昨年度の研究主題は、「自ら学ぶ力の育成～自己調整学習を通して～」であり、「自己調整学習」という学習方法を学習に限らず、学校行事を含めた様々な活動の場面に導入し、生徒の主体性の向上や自ら学ぶ力の育成、自尊心を高めるための指導方法を研究してきた。目標設定や振り返りを繰り返す中で、生徒の意欲の向上や行事後の達成感が十分に感じられる場面が多くなり、アンケートの分析でも、生徒の望ましい変容が数値から見てとれた。今年度は３年計画の３年目であり、昨年度までの取り組みで課題とされた内容の改善を図りながら、自主学習ノートの取り組みを中心に研究を進めていくこととした。

「自己調整学習」とは、「予見段階（課題を分析し、計画を立てる）」「遂行段階（実践しながら自分で自分を観察する）」「自己内省段階（自己評価と結果と原因の分析など）」の「循環的段階モデル」と呼ばれるプロセスにのっとった学習方法であるが、本校では学習に限らず、行事や一年間の目標などにも「自己調整学習」のプロセスを取り入れて、「予見・遂行・自己内省」の一連の流れを繰り返すことで、生徒の「自ら学ぶ力の育成」に迫っていきたい。

２　研究のねらい

「自己調整学習」の考え方の中の「循環的段階モデル」という学びのプロセスを、学習を含めた諸活動に取り入れていくことで、生徒自身が自分の学びを計画し、実践し、自己評価して次につなげていく姿勢を身につけることを目指す。その姿勢を身につけさせることが「自ら学ぶ力の育成」であり、それによって諸活動に向かう際の意欲や主体性を高めることができるのではないかと考えている。そのためには、ただこのプロセスを取り入れるだけではなく、教師が積極的に模範を示す「モデリング」の役割を果たす必要がある。生徒がより効果的に、意欲的に学べるよう、よりよい計画の在り方や学び方、適切な自己評価の在り方などを示し、導いていくための方法を研究し、「自ら学ぶ力の育成」に迫っていきたい。今年度は３年目であるので、昨年度までの反省を踏まえ、「自己調整学習」の各教科での取り入れ方をさらに研究し、年２回行うＱＵの学習意欲に関するアンケートや、学校独自で作成する学習意欲に関するアンケート結果の分析などを行い、生徒の変容を見ていきたい。

３　研究仮説

「自己調整学習」の「予見・遂行・自己内省段階」のプロセスを、学習を含めた諸活動に繰り返し取り入れていくことで、生徒は自然にそのプロセスが身についていくと考える。また、そのプロセスを形だけ導入するのではなく、各段階において教師が良い計画の立て方、学習の仕方、適切な自己評価の在り方などを示すことで、生徒がよりよい方法を学び、選べるように導いていくことができる。その結果、自分で自分の学びをコントロールし、意欲的に学ぶ生徒の育成が果たされると考える。

４　研究内容

(1)　「自己調整学習」のプロセスを自主学習ノートに取り入れ、生徒がより効果的に学びを進められるよう、適切な支援の仕方について研究する。

(2)　問題解決のためにどんな力が必要とされ、どんな考え方や学習方法があるのかを生徒に明示できるように、教材研究を徹底する。

(3)　生徒の「予見・遂行・自己内省」の様子を手助けし、生徒の意欲を高めるためのアドバイスのタイミングや在り方を研究する。

５　研究の経過

(1)　研究仮説に基づく授業研究等

月	日	内容・授業者・概要等
４	５	第１回校内研…校内研テーマ「自己調整学習」の確認と方向性
４	２６	第２回校内研…「自己調整学習」の実践例紹介
５	３１	ＪＳ…「自己調整学習」を意識した自主学習ノートについて
６～７月		授業参観月間
８	２	第４回校内研…「自己調整学習」を取り入れた授業実践紹介と、授業参観月間について
８～９月		授業参観月間
１０	３０	第５回校内研…授業参観月間の振り返り
１１	２９	教育指導課訪問 第６回校内研（要請訪問）　１年Ａ組　英語　授業者　教諭　大坂　崇
１	３１	第８回校内研…今年度の研究のまとめと次年度に向けての協議

(2)　一般研修

月	日	内容・講師・概要等
６	２８	第３回校内研…ＱＵ①（５月実施）、各種アンケート結果分析と考察
１１	２７	ＪＳ授業研修会（小中の実態把握と今後の取り組みについて）
１２	２０	第７回校内研…ＱＵ②（１１月実施）、各種アンケート結果分析と考察

６　研究の成果

(1)　自己調整学習を取り入れた授業を教師が互いに参観し合うことで､他教科での取り入れ方や教師の「モデリング」などの模範の示し方などについて研修を深められた。また、「自ら学ぶ力の育成」を図るためには有効な手段であることを共有することができた。

(2)　学校行事においても自己調整学習を取り入れたワークシートを活用し、予見・遂行・自己内省のプロセスを図ることで､取り組みに対する達成感を感じる生徒が多くみられた。

(3)　自己調整学習アンケートや自尊感情アンケート、ＱＵを実施し分析を行った。自尊感情アンケートでは学校全体で 18 項目中 13 項目が上昇した｡これは様々な教育活動において自己調整学習を取り入れたことが、自尊感情の向上の一因ではないかと考える。また、自己調整学習アンケートの１学年と２学年においては、１学期に比べ２学期ではわずかに数値が下がる結果となったが､自己調整学習を３年間取り組んできた３年生では、予見、遂行、自己内省の項目において数値が上昇した。様々な視点から生徒理解を深め、日々の授業や指導に生かすことができた。

(4)　小中ジョイントスクールにおいて､自己調整学習を取り入れた自主学習ノートの活用について研修を行い、系統的な教育を意識した取り組みをすることができた。

７　研究の課題

(1)　「自ら学ぶ力の育成」～自己調整学習を通して～の研究主題のもと、３年間研究を進めてきた｡継続して取り組んだ学年のアンケートでは大幅な数値の上昇がみられ、自己調整学習のプロセスを意識した教育活動の取り組みが有意義であることが感じられたものの､指導する教師が自己調整学習に対する深い理解がなければ､難しい一面もある｡また､定期考査や学校行事等では全校で共通のワークシートを用いて取り組めるが､授業でおいては教科の特性や時数の制限等もあり､取り入れ方や回数などに､大きな差が生まれるなどの課題がみられた。

(2)　自己調整学習における「予見・遂行・自己内省」のプロセスは繰り返し行うことで自ら学ぶ力の育成を図ることにつながるが、遂行するための方略を生徒自らが立てたり、自己を適切に振り返ったりすることは、教師の支援が不可欠である。この学習プロセスを意識し生かしつつ､もう少し生徒も教師も取り組みやすさを感じられるものを工夫していく必要がある。

（記入者　　齋藤さと子）